



企画展

終戦80年



半田の戦争記録

令和7年

6.21[土]・8.31[日]

開館時間 10:00~18:00

休館日 6/23月・30月・7/7月・14月・22火・28月・8/4日・12火・18月・25月

半田市立博物館

〒475-0928
愛知県半田市桐ヶ丘4丁目209番地の1
TEL.(0569)23-7173

1. 戦争体制へ

半田市が誕生した昭和12年（1937年）10月は、日中戦争が始まったばかりで国内が戦争体制一色となった時期でもあり、日中戦争のひろがりとともに国民の総動員体制が確立されていきました。

昭和13年（1938年）に国家総動員法が公布され、国民経済・生活が全面的に国の統制下に置かれ、国民や物資が戦争のために使われるようになりました。さらに、この法律にもとづき国民徴用令が公布され、軍需工場などで強制的に働かされることになりました。

昭和15年（1940年）には政党が解散し、大政翼賛会が結成されました。半田市でも、昭和16年（1941年）に**大政翼賛会半田支部**が設置され、さらに、昭和17年（1942年）5月には、愛国婦人会と大日本国防婦人会の半田市支部が解散統合して**大日本婦人会半田支部**が結成されました。これにより、婦人の動員体制が一元化され、戦死者の家族の手助けを中心に活発な活動を行っていくようになりました。



大政翼賛会半田支部結成（昭和16年）



大政翼賛会半田支部の推進員辞令交付（昭和16年）



大日本婦人会半田支部結成（昭和17年）

乙
山車は中止と決す
糸切り風で有名な市内乙川祭は三月十五、十六日であるが本年は緊迫せる時局に鑑み村社八幡社並に御旅所若宮社で式典のみ行ひ山車は中止することと決定したので四月月上旬より行はれる市内各字御祭典も式典のみ行ひ山車は自然中止される模様である

半田市公報 第64号（昭和20年）

決 議
私共にとつてその日その日の暮しが戦ひであります今こそ私共は凡ての物と時とを生かし力の限りを盡してこの経済決戦を断じて勝ち抜きませう
大日本婦人会半田市支部

半田市公報 第46号（昭和18年）



空襲に備えたバケツリレーの消火訓練（昭和19年頃）

半田市公報に掲載された標語（スローガン）

半 田 市
一億ががつちり組んだ防諜陣
米英はゆるむ心をねらつてゐる
敵のねらひは思想のゆるみ
防諜は今日から出来る御奉公
お互に慎しませうデマ流言

半田市公報 第48号（昭和18年）

半 田 市
銃後の守りは先づ防諜
防諜防空不敗の備へ
言ふな迷ふなデマ防諜
防諜は日本人の眞精神
火の用心スパイ用心隣組

半田市公報 第49号（昭和18年）

半 田 市
◎靖國の神に應へん先づ防諜
◎屠れ米英斃せよスパイ
◎防諜堅し國強し
◎勝敗の鍵は背後の思想戦
◎決戦先づお互が心の武裝

半田市公報 第54号（昭和18年）

2. 戦争と市民生活

戦争が進むにつれ、民間による様々な物や商品のほぼ全ての生産が軍のために変えられていきました。そして、次第に物の不足が深刻となり、**物資の取り締まりと配給制度**が行われるようになりました。配給制は日用品のほぼ全てに広げられ、『ぜいたくは敵だ』『足らぬ足らぬは工夫が足らぬ』『欲しがりません勝つまでは』などの標語が広まりました。

半田は農家が少なく食料事情が極めて悪かったため、空き地や校庭、公園などが畑に変えられ、さつまいもなどの作物が作られました。また、戦争の費用を生み出すために貯蓄を勧める運動や国債を買う運動、その他いろいろな献金運動が繰り返し行われました。軍事資材の不足を補うために、家庭や寺院などにある金属類を集める運動も行われました。こうした中、航空機の不足に対して大政翼賛会半田支部が国に飛行機を献納することを提案し、半田市から「半田市民号」3機が献納されました。しかし、このような市民の努力と苦労も空しく、戦況はますます悪化していきました。



2月分家庭用砂糖配給について（昭和17年）



戦時貯蓄債券（昭和17年）



貯蓄を呼びかけるプラスバンドの行進（昭和18年）

配給物資関係 町内会隣組回報 『半田市公報 第41号』（昭和18年）より抜粋

配給品名	購入資格	数 量
豆類特配	一般家庭用	1世帯2合
12月分木炭	同	1世帯1俵（4貫目）
石 鹼	2人マデノ世帯	洗顔1ケ、洗濯1ケ
	3人ヨリ6人迄	洗顔2ケ、洗濯1ケ
	7人ヨリ10人迄	洗顔3ケ、洗濯2ケ
	11人以上世帯	洗顔4ケ、洗濯4ケ
鯉 節	一般家庭用	4人迄ノ世帯小ヅシ1本 5人以上世帯大ヅシ1本
鶏 卵	3人マデノ世帯	3個
	4人ヨリ6人迄世帯	6個
	7人ヨリ10人迄世帯	10個
	11人以上ノ世帯	12個
パ ン	一般家庭用	1人に付1個
マッチ	同	並型 1包
		家庭小型 1箱
		家庭大型 1箱



半田市公報 第48号（昭和18年）

玄米を食べ自給自足で頑張らう

どうして玄米を食べなければならないか
戦争生活は不自由勝ちの中からどうして国民の生活を安定させるかにあります、これが爲めに一つのことに對しても、どうすれば一番良い思ひつきか良い考へかと一生懸命考へ此の戦争を勝ち抜くにあゆる手段を眞剣にしらべ、其の上實行しなければなりません今までのやうな生活を續けてゐたら、すぐにも行きづまりが來ることはあたりまへのことです、どうしても我慢に我慢を重ねて戦争に勝ち抜く爲めに少しでも我慢に我慢を重ねて戦争に勝ち抜く爲めに、食に敗れたものは戦ひに敗れる前の

半田市公報 第42号（昭和18年）

3. 戦時下の教育

大正から昭和の初めにかけて、日本は戦争や不景気などの重大な出来事にぶつかり、教育におけるさまざまな分野で、次第に軍国主義的色合いが強まっていきました。

昭和16年（1941年）の国民学校令により、市内の小学校は**国民学校**と名を改めます。国民学校では、これまでの尋常科が初等科と名を変え、初等科6年、高等科2年の計8年間が義務教育となりました。

国民学校初等科では、国民科（修身・国語・国史・地理）、理数科（算数・理科）、鍛錬科（武道・体操）、芸能科（音楽・工作・家事裁縫）が教えられ、高等科ではさらに実業科（商業・農耕）が加わりました。

この国民学校では、戦時下の子どもたちを育成する目的で、特に武道訓練と団体訓練に重点を置いた教育活動が日々行われていました。しかし、やがて戦争が激しくなると、**勤労奉仕**という名のもとに、子どもたちも畑を耕したり、工場で働いたりするようになりました。



夏休みの宿題で軍へ献納するための草刈り（昭和16年頃）
提供：半田市立岩滑小学校



仲田池にて軍馬用干し草の刈り取り作業（昭和16年）
提供：半田市立成岩小学校

半田市における小中学校の移り変わり

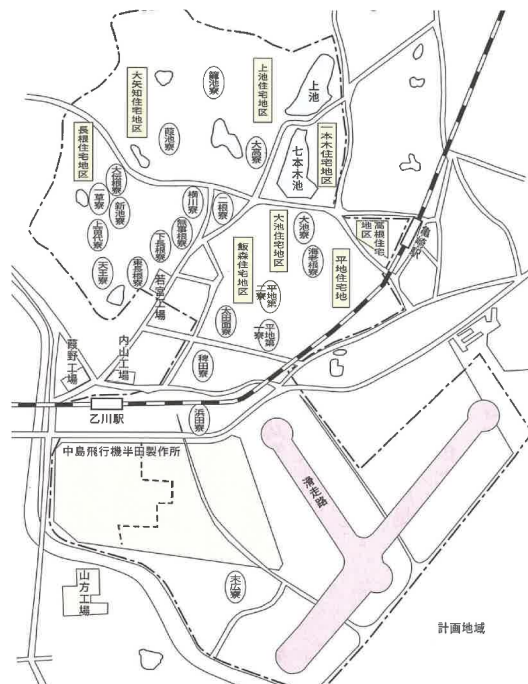
『郷土読本 はんだ』に加筆

S60 宮池小学校 (成岩・雁宿・板山小から分離)	S22 板山小学校	S16 板山国民学校	M41 成岩第二尋常小学校
S44 花園小学校	S22 成岩小学校	S16 成岩国民学校	M41 成岩第一尋常高等小学校
H15 さくら小学校	S22 半田小学校	S16 半田第一国民学校	M44 半田第一尋常高等小学校
S57 雁宿小学校 (半田・岩滑小から分離)	S22 岩滑小学校	S16 半田第二国民学校	M44 半田第二尋常小学校
H1 横川小学校	S22 乙川小学校	S16 乙川国民学校	M40 亀崎第二尋常高等小学校
S35 乙川東小学校	S22 乙川小学校	S20 平地国民学校	
	S22 亀崎小学校	S16 亀崎国民学校	M40 亀崎第一尋常高等小学校
	S22 有脇小学校	S16 有脇国民学校	M40 亀崎第三尋常小学校
S55 青山中学校	S22 成岩中学校	昭和22年（1947年）4月、学校教育法の施行により、国民学校は小学校へと名称を変え、同時に新制中学校が発足しました。中学校は母体となる旧制学校が無く、発足当時、旧平地国民学校の校舎に入った乙川中学校を除き、成岩・半田・亀崎中学校は小学校に併置されていました。	
	S22 半田中学校		
	S22 乙川中学校		
	S22 亀崎中学校		

4. 中島飛行機の進出

昭和15年（1940年）、衣ヶ浦総合港湾計画が国の計画に組み込まれることが決まり、衣ヶ浦臨海工業地帯が造られることになりました。まず、昭和17年（1942年）に日本碍子株式会社が成岩に工場を建設し、続いて同年8月には、**中島飛行機半田製作所**も工場建設を始め、さらに川崎重工株式会社が誘致されました。

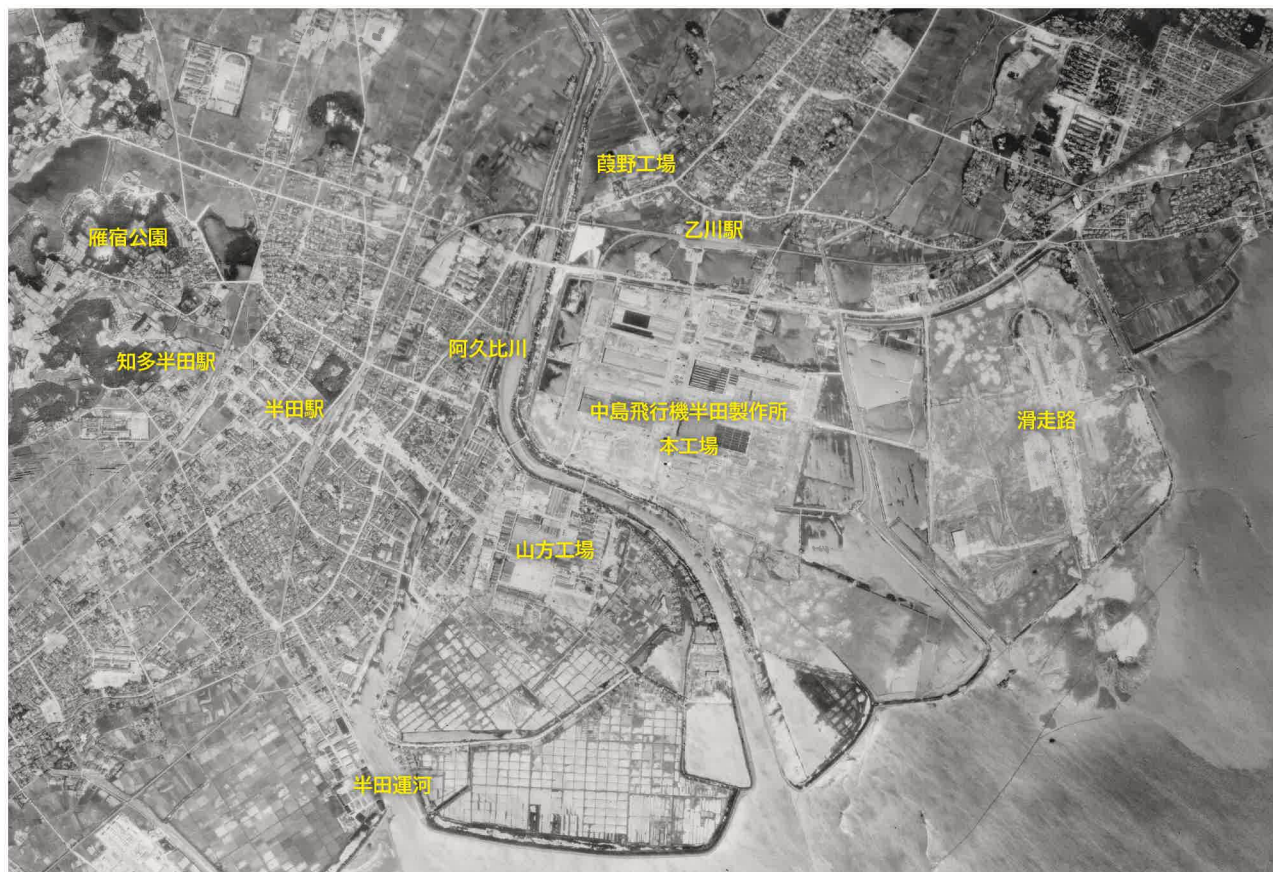
中島飛行機半田製作所の工場用地は、阿久比町横松の山を削った土で、乙川の耕地を埋め立てて造成されました。約380万㎡もの広大な敷地に複数の工場や倉庫のほか、2本の滑走路などが建設される計画でした。さらに、旧市街地を除く乙川地区一帯と亀崎地区の一部（約541万㎡）を対象とする都市計画も立てられました。しかし、組立工場と滑走路の建設が最優先とされ、その後も一貫して機体の生産実績が優先されたため、工場の建設はあまり進みませんでした。その結果、敗戦時までには建設された工場は、最終的に計画の約46%、滑走路は当初の計画より短い約1,000mの1本が造られただけでした。



中島飛行機半田製作所都市計画図
『郷土読本 はんだ』より

米軍偵察機による航空写真（昭和20年7月5日撮影）

米国公文書館所蔵／提供：（一財）日本地図センター



7. 軍需産業への転換

戦争が進むにつれ、原料や労働力の不足によって当地方の産業は大きな困難にぶつかります。昭和17年（1942年）5月には企業整備令が公布され、政府が中小企業に対して強い法的強制力を持つことになりました。これにより、多くの企業が整理統合され、軍需生産への転換が強く進められました。

半田の酒造業界では、食料確保のために原料の米が制限されたため生産が大きく減少し、半数以上の工場が閉鎖されました。中埜酢店は生産高が著しく減少したものの、製酢業界の大手として残ります。

昭和19年（1944年）には、**東洋紡績株式会社知多工場**が工場の全てを中島飛行機に譲渡し、航空機製造工場となりました。また、**大日本麦酒株式会社半田工場**（現在の半田赤レンガ建物）も、企業整備令により昭和19年に全施設を中島飛行機半田製作所に差し出し、資材倉庫として使われることになりました。こうして半田は、中島飛行機を中心に軍需産業一色となっていきました。

酒造業の企業整備実施計画

『新修 半田市誌 中巻』より

製造者		基本石数		合同経営体または転用先
位置	名称	操業分	廃止分	
半田	田中酒造（資）	803	608	
半田	丸中酒造（資）本倉 南倉	1,516	1,149	川崎重工（株）賃貸
阿久比	新美市郎		496	未決
半田	榊原酒造（資）	575		半田醸造会社 （代表：竹内佐一）
半田	竹内佐一	973		
内海	内田七郎兵衛	454		
豊浜	家田半三郎		195	未決
師崎	渡辺嘉平次		386	未決
篠島	藤田平治郎		106	未決

製造者		基本石数		合同経営体または転用先
位置	名称	操業分	廃止分	
亀崎	伊東（資）本倉	1,641		大同製鋼（株）取毀
	大西倉	1,292		
	相生倉		404	
	中倉		688	
	新居倉		1,129	大同製鋼（株）取毀
亀崎	太田（資）	704	533	
亀崎	堤酒造（株）本倉		1,211	所有者へ返付
	出倉		358	
亀崎	吉田酒造（資）		164	中島飛行機活材工場 賃貸
亀崎	稲葉酒造（資）		712	
亀崎	天竺酒造（資）	428		
東浦	原田徳右衛門	543		
東浦	野村定助	430		知多酒造会社 （代表：天竺栄三）

知多紡績から東洋紡績へ

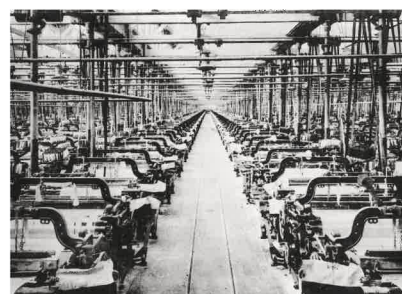
明治29年（1896年）、小栗富治郎ら半田町の有力者により**知多紡績株式会社**が設立され、明治30年代後半から業績が順調に推移していきました。しかし、大手紡績会社との競争により経営が厳しくなり、明治40年（1907年）に三重紡績（株）に吸収合併されました。さらに、三重紡績（株）も各地との合併を経て規模を拡大しましたが、大正3年（1914年）に大阪紡績（株）と合併し、新会社の**東洋紡績株式会社**が誕生。我が国最大の紡績会社となりました。中でも、**知多工場**は生産高第2位を誇る重要工場として位置づけられ、発展を遂げました。

大正3年に第一次世界大戦が始まると、日本は大変な好景気となります。半田地域では、東洋紡績知多工場に代表されるように、朝鮮方面からの綿布の大量注文により、工場がフル操業となりました。大正6年（1917年）には、半田町の人口13,791人のうち、知多工場の従業員が3,485人で、全体の4分の1にも達するほどでした。

その後、昭和19年（1944年）に工場の全てが中島飛行機に譲渡され、知多工場は航空機製造工場（**中島飛行機半田製作所**）となります。



東洋紡績株式会社知多工場 全景



東洋紡績株式会社知多工場 織機部

8. 戦時下の震災

昭和19年（1944年）12月7日の午後1時36分頃、紀伊半島東部熊野灘沖を震源地とするマグニチュード7.9の巨大地震「**昭和東南海地震**」が発生しました。愛知・三重・静岡で特に被害が大きく、全体で死者・行方不明者1,223人、家屋全壊17,599戸にのぼりました。半田市では、干拓地である山方・亀洲・康衛新田の家屋をはじめ、亀崎の望州楼百畳の間や稲葉酒造倉など各地で建物が倒壊し、180名以上の犠牲者を出しました。特に、**中島飛行機半田製作所の山方工場と葭野工場の倒壊により153名（うち96名は勤労動員学徒）が犠牲**となりました。

さらに、昭和東南海地震の発生から37日後、昭和20年（1945年）1月13日の午前3時38分頃、三河湾でマグニチュード6.8の直下型地震「**三河地震**」が発生しました。地震規模の割に被害が大きく、全体で死者2,306人、家屋全壊7,221戸にのぼりました。愛知県下では、幡豆郡全域と碧海郡南部に被害が集中しています。半田市の被害は死者12人、家屋の全半壊450戸余りでした。

これら二つの震災は、戦時下の厳しい報道管制のため、被害の状況がほとんど報道されませんでした。

昭和東南海地震による半田市内の被害状況



稲葉酒造付近（亀崎字越前）



望州楼百畳の間（亀崎町）



海蔵寺（乙川若宮町）



山方新田・源兵衛橋方面を望む（源平町）



中笠酢店本倉（源平町）



半田第一国民学校作法室（勤内町）

昭和東南海地震による半田市の被害

総戸数		10,729 戸
住 家	全 壊	800 戸
	半 壊	497 戸
非住家	全 壊	273 戸
	半 壊	222 戸
死 者		188 人
負傷者		286 人

愛知県防災会議『昭和19年12月7日東南海地震の震害と震度分布』より



半田市公報 第63号（昭和20年）



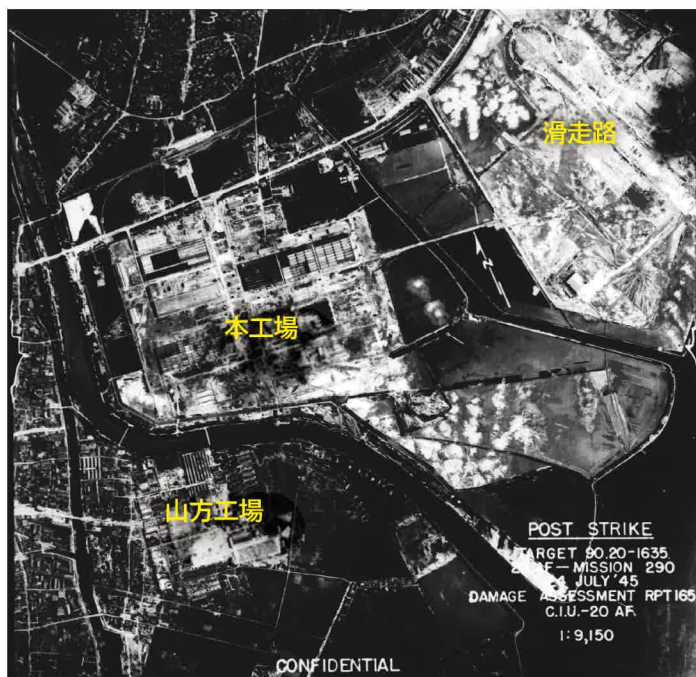
標柱「東南海地震被災の地」（半田市役所）

9. 半田空襲

昭和20年(1945年)7月15日、硫黄島から進発してきた十数機のP-51小型戦闘機により、半田市への本格的な初空襲が行われました。超低空飛行での攻撃が繰り返され、市内とその周辺に機銃掃射が浴びせられました。その際、中島飛行機半田製作所の衣糧倉庫として使われていた大日本麦酒(株)半田工場(現在の半田赤レンガ建物)は、機銃掃射によって火災が発生し、一部が焼失する被害もありました。現在も、半田赤レンガ建物のレンガ壁には、機銃弾の当たった跡が多数残されています。

さらに、同年7月24日には半田市を攻撃目標とした大規模な爆撃がありました。B-29大型爆撃機78機により、250キロ爆弾2,149発、1トン爆弾7発が投下されました。その後、グラマン・P-51・P-38などの戦闘機が機銃掃射を浴びせて死傷者を増大させ、264人以上が犠牲となりました。また、この空襲の主目的であった中島飛行機半田製作所は、本工場へ81発、山方工場へ35発の爆弾が投下されて壊滅的な被害を受け、事実上生産が停止となりました。

この“半田空襲”から1か月も経たない昭和20年(1945年)8月15日、日本は終戦を迎えます。



7月24日の空襲後に撮影された中島飛行機半田製作所航空写真
米国戦略爆撃調査団文書(国立国会図書館デジタルコレクションより)



米軍の空爆で破壊された中島飛行機半田製作所本工場
提供: 半田空襲と戦争を記録する会



半田赤レンガ建物の弾痕壁

半田・戦災犠牲者一覧表

『半田の戦争記録 第三集』より

	地震	空襲	労災	合計
学徒	97	21	5	123
徴用者	17	12	0	29
挺身隊	3	14	0	17
従業員	37	29	0	66
朝鮮人労働者		※注2 59	1	60
一般市民		145		145
合計	※注1 154	280	6	440

※注1 地震の犠牲者数は軍需工場分のみ。ほか、住宅地で34人が死亡。

※注2 徴用青年48人を含む。

空襲体験の証言

あのときはとにかくすごかったがな。爆弾が雨ぐらい降りよった。田んぼや家の裏の運河の船だまりにもぎょうさん落ちての。船が一艘のこらずやられての、機械が陸の上に放り出されとったに。

『半田の戦争記録』より

10. 戦禍をこえて

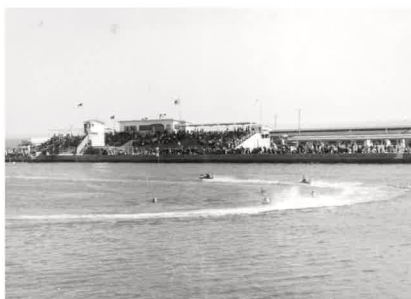
焼け野原となった国内では、衣・食・住のすべてで足りない物ばかりでした。半田もその例外ではなく、市民の生活は極めて苦しいものでした。

軍需生産の中心だった中島飛行機半田製作所は、戦後いち早く富士産業㈱と社名を改め、**軍需産業から平和産業へ**と転換します。しかし、財閥解体の対象となった富士産業㈱は解体され、昭和28年（1953年）に輸送機工業㈱と社名を改め、再建されました。また、敗戦直後、半田の繊維工業はとても苦しい状態でしたが、戦後復興期の激しい動きのなか、目覚ましい勢いで生産が回復していきます。繊維工業と並ぶ地場産業である醸造業も、原料不足などの条件に制約されながらも、次第に復興していきました。

そして、昭和30年代以降、日本の高度経済成長と時を同じくして、半田は大きく飛躍していきます。臨海工業地帯への工場誘致をはじめ、愛知用水を活用した産業の発展や交通網の充実など、知多半島の政治・経済・文化の中心都市として、伝統が生きる近代的な街づくりを目指し、着実に歩み始めていきます。



銀座本町の様子（昭和25年頃）



半田競艇（昭和28年）



衣浦大橋開通（昭和31年）



愛知用水完成（昭和36年）



知多半島道路全線開通（昭和46年）



衣浦海底トンネル開通（昭和48年）

戦争に関する資料を集めています

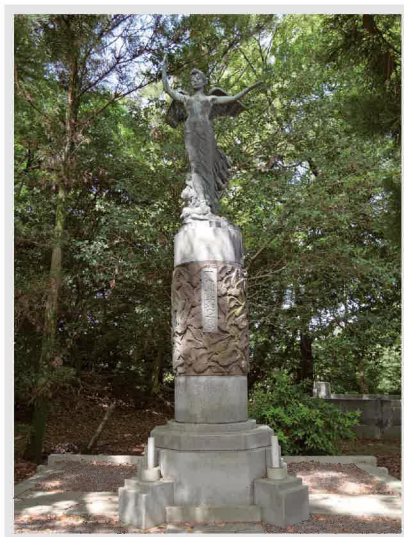
博物館では、戦時下のくらしの様子を伝える資料や軍装品・軍隊生活用品などの戦争関係資料を収集しています。これらの貴重な資料を大切に保存するとともに、展示や教育普及活動を通じて、当時の記録や記憶を後世へ伝えていきます。

資料をご寄贈いただける方は、ぜひ博物館までご連絡ください。

※収集している資料の例

生活道具、写真、ポスター、ちらし、新聞、雑誌、債券、保険証券、配給書類、日記、軍事郵便はがき、教科書、おもちゃ、軍服、勲章、召集令状、軍隊手帳、千人針、中島飛行機半田製作所関係資料 など





殉難学徒之像（雁宿公園）

編集／発行 半田市立博物館
〒475-0928 愛知県半田市桐ヶ丘4丁目 209 番地の1
TEL : 0569-23-7173 E-mail : hkbutsu@city.handa.lg.jp
発行日 令和7年（2025年）6月
印刷 半田中央印刷株式会社